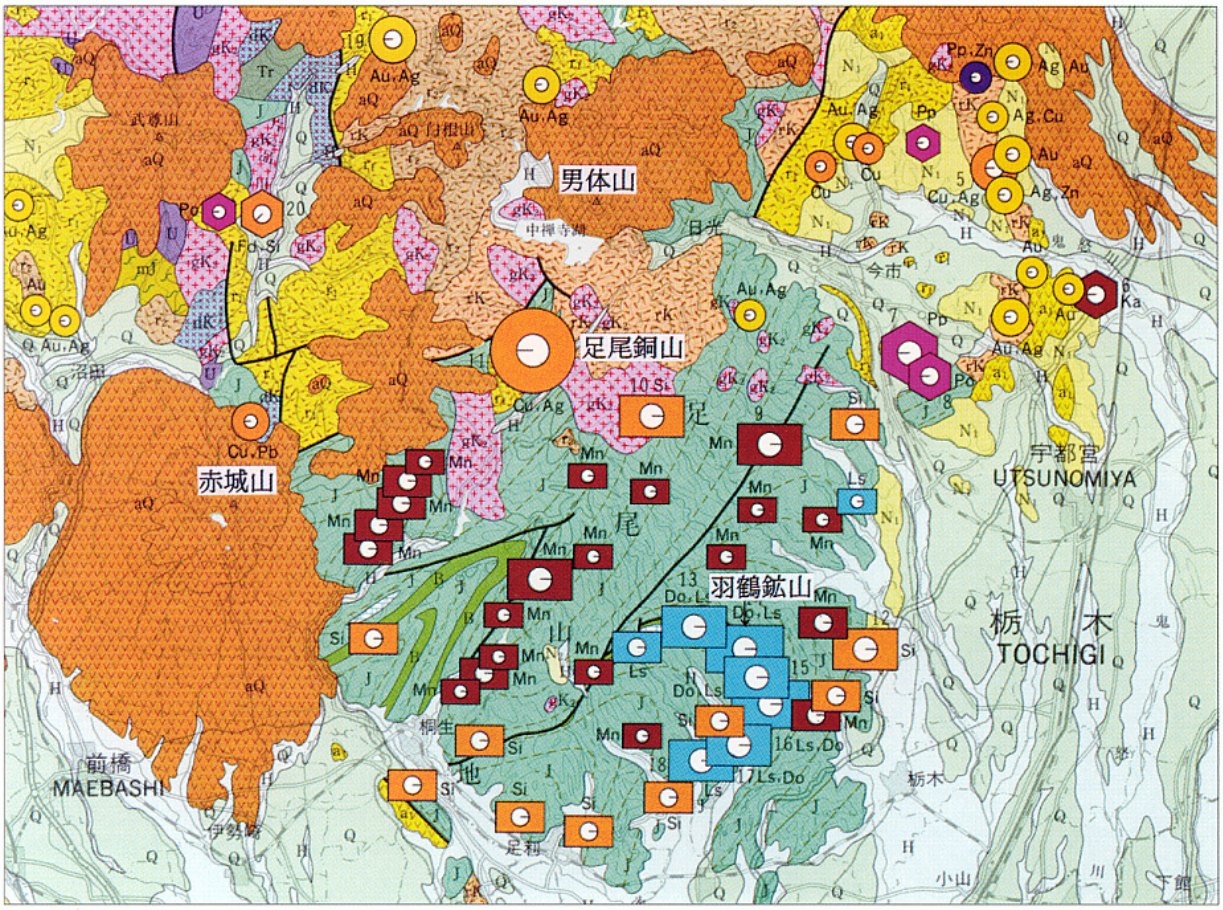
50万分の1鉱物資源図「関東甲信越」

＜須　藤　定　久＞

[1] 足尾山地

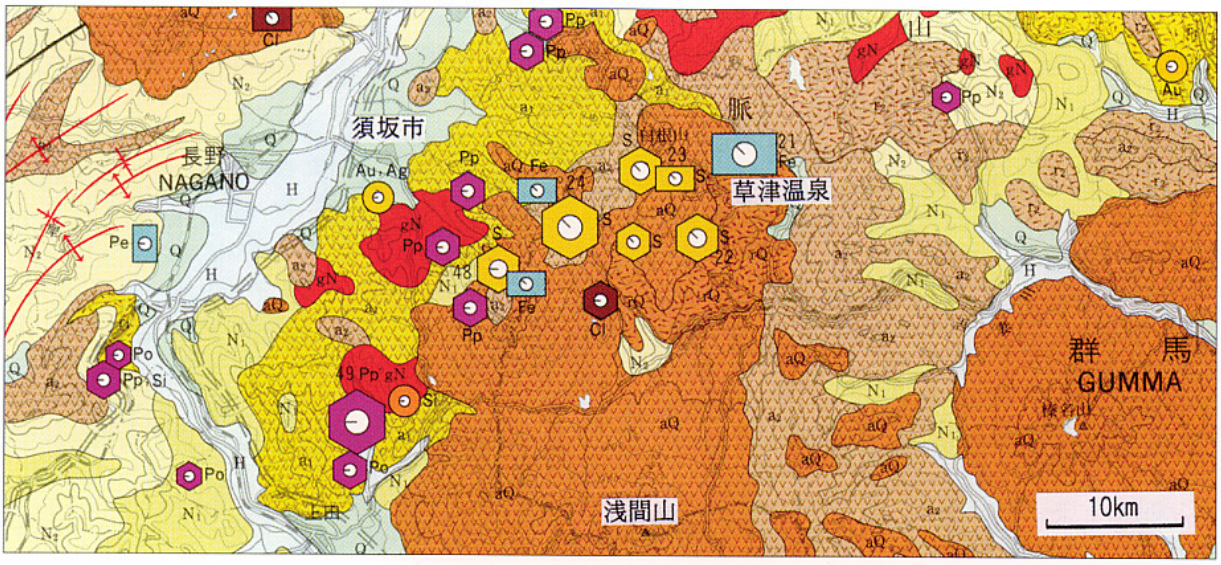


1. 足尾山地の鉱物資源（鉱物資源図「関東甲信越」の一部）．画面中央部の大きな丸が足尾銅山．その右下（南東側）に，マンガン鉱床（茶色），珪石鉱床（オレンジ色），石灰石鉱床（青色）が密集している．

2. 葛生地区での石灰石の採掘（羽鶴鉱山）．羽鶴鉱山は日本を代表する石灰石・ドロマイト鉱山．昭和26年に操業開始し，既生産量は8,343万t，現在の年産は253万t，巨大な採掘場の長径は約1kmもあり，最も安全に，合理的に，自然に優しくを目指して採掘が進められている．採掘場の手前の部分は既に採掘を終え緑化されている（写真提供：日鉄鉱業（株）羽鶴鉱山）．

（関連：本文66ページ）

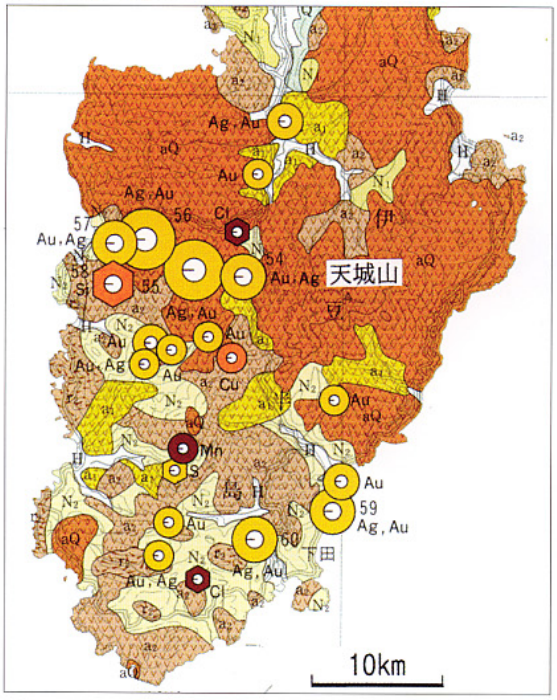
[2] 上信地方の鉱物資源



3. 上信地区の鉱物資源（鉱物資源図の一部）．多くの硫黄鉱床が分布するほか，画面の右上には鉄鉱床（No.21, 旧群馬鉄山），左側には信陽ろう石鉱床（No.49）がある．

4. 東日本有数の規模を誇った信陽ろう石鉱山．真田一族ゆかりの長野県小県郡真田町にある．1937年に開山し，耐火物・農薬・セメント原料を供給してきたが，1995年頃には採掘を終えた．採掘場の長径は約400m，標高差は200mほど．写真は盛んに採掘されていた1992年10月に撮影したもの．

[3] 伊豆半島のの鉱物資源



5. 伊豆半島の鉱物資源（鉱物資源図「関東甲信越」の一部）．金鉱床（黄色）が密集し，西海岸に伊豆珪石鉱床（ピンク色，No.58）がある．

6. 伊豆珪石の採掘場．広大な採掘場は長径1,500mに及び，周囲の整然とした階段状の残壁は採掘終了とともに次々と緑化されていく．